

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 6 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22401033

研究課題名（和文） 沿海州渤海土城の研究—クラスキノ土城を中心として—

研究課題名（英文） Study of ancient walled town in Primorsky Krai—Mainly Kraskino ancient walled town—

研究代表者

清水 信行（SHIMIZU NOBUYUKI）

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号：00178980

研究成果の概要（和文）：クラスキノ土城の東門甕城内で検出された瓦敷き道路状遺構の城内への行方と甕城内の城壁本体について発掘調査を行い、道路状遺構が城内に西に向かって伸びることを確認するとともに、甕城内の城壁本体は数回にわたって修復されていることを確認した。甕城内の入り口部分北側の調査では、城壁本体に登るための階段と考えられる遺構が検出された。シンポジウム『渤海を掘る X』を開催し、「沿海州渤海古城 クラスキノ古城の機能と性格」と題して、研究代表者と連携研究者がそれぞれのテーマで研究発表を行い、日・ロ研究者間でクラスキノ土城に関する認識を共有し、理解を深めることが出来た。また、その成果を『論集 沿海州渤海古城 クラスキノ古城の機能と性格』として出版し、内外の研究者に公表することが出来た。

研究成果の概要（英文）：We excavated the eastern gate of Kraskino ancient walled town. We revealed a situation of a passage which was found from inside of ‘Yo-Jo’ paved with fragments of roof-tiles and that the stone wall of inner part of ‘Yo-Jo’ was repaired a few times and found a trace of steps which goes up to the main wall at northern part of the mouth of the gate. We also held a symposium “Excavating Bohai X” and we Japanese and Russian scholars could deepen understanding and get a common recognition for the character and function of Kraskino ancient walled town. We published “a collection of essay —The character and function of Kraskino ancient walled town of Primorye area —”

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2011年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2012年度	2,100,000	630,000	2,730,000
年度			
年度			
総計	13,600,000	4,080,000	17,680,000

研究分野：人文学A

科研費の分科・細目：考古学

キーワード：渤海、沿海州、クラスキノ土城、

日・渤海文化交流、日本道、日・ロ共同研究

1. 研究開始当初の背景

(1) 1998年からクラスキノ土城の発掘調

査をロシア科学アカデミー極東支部歴史学・考古学・民族学研究所と協定書を結んだ上で、継続している。

(2) クラスキノ土城は、渤海国が日本へ遣使を送る際の出発港に位置する行政拠点と目されており、『新唐書』渤海伝に記述される「龍原東南瀕海、日本道也…」という内容と合致する場所に立地している。文献の上で各国諸研究者は、この土城を日本道の出発港であると認めているが、考古学的な証拠はまだ示されていない。本研究は考古学的に本土城が日本道の拠点であることを証明しようとするものである。

2. 研究の目的

(1) 前述のように、本土城の調査は1998年から開始され、その後年次的に行われてきた。本科学研費助成金による調査は、これまでの調査を基礎に、クラスキノ土城の東門の入り口部分を調査し、その部分に検出された瓦敷き道路状遺構の城内への行方を追究し、東門の構造を明らかにすることを目的に開始した。

(2) この門の構造を明らかにすることは、沿海州の土城の性格を明らかにする上で、重要である。これまでの調査で、『甕城』、『馬面』というような沿海州の渤海遺跡では他に例のない遺構が検出されており、その構造や機能を明らかにすることは、他の土城のそれを明らかにすることに通じている。また、この土城の機能と性格を明確にすることによって、沿海州の諸土城が渤海にとってどのような役割を果たしていたかが解明されることになる。以上のようなことを明らかにすることを本研究は目的としている。

3. 研究の方法

(1) クラスキノ土城の甕城内の瓦敷き道路

状遺構および門跡の構造を発掘調査により解明する。

(2) 甕城の城内側入り口の北側部分及び南側部分の調査を行う。

(3) 共同調査を行っているロシア科学アカデミー極東支部歴史学・考古学・民族学研究所中世考古学班のロシア研究者を日本へ招請し、その年の研究成果を公開講演会を開いて発表する。

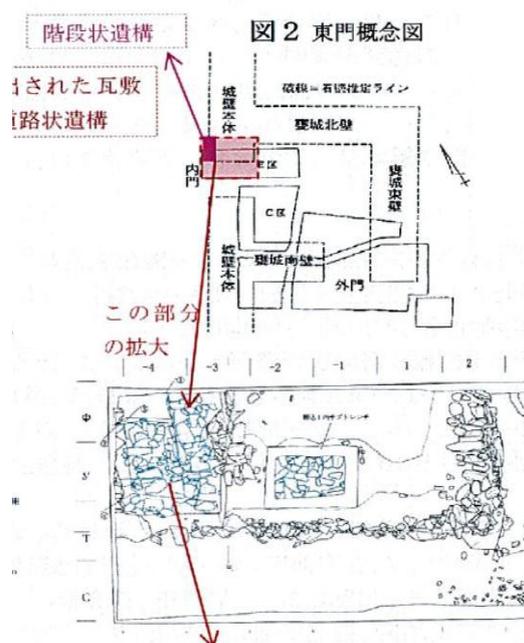
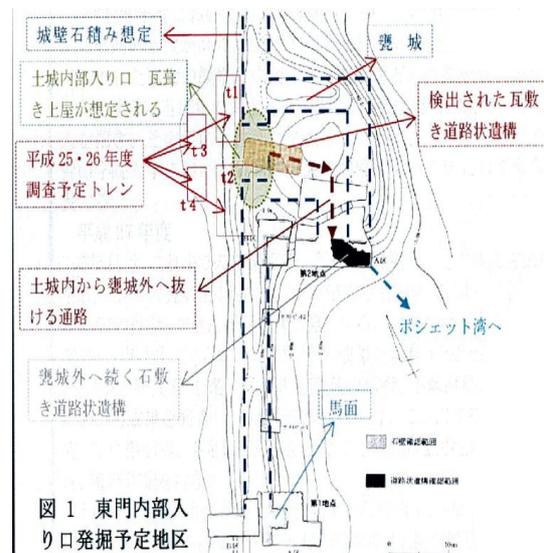


図3 内部入り口城壁本体北側階段状遺構

上記の公開講演会は、2010年度においては『渤海を掘るⅧ』（於、青山学院大学 2011.3）、2011年度においては『渤海を掘るⅨ』（於、青山学院大学 2012.3）を開催し、各年度に行なったクラスキノ土城における発掘調査の成果を日本隊、ロシア隊それぞれが国内の研究者、本学の院生、学生に公表した。

4. 研究成果

(1) 道路状遺構の城内への行方と甕城内の城壁本体の調査については、道路状遺構が城内に西に向かって伸びることを確認するとともに、甕城内の城壁本体は数回にわたって修復されていることを確認した。甕城内の入り口部分北側の調査では、城壁本体に登るための階段と考えられる遺構が検出されたが、発掘範囲が狭いため、拡張してこの部分を精査する必要がある。この調査成果に関しては以下の図面を参照していただきたい。

(2) 最終年のロシア研究者を招請してのシンポジウム『渤海を掘るⅩ』においては、これまでのクラスキノ土城の調査をもとに、「沿海州渤海古城 クラスキノ古城の機能と性格」と題して、研究代表者と連携研究者がそれぞれのテーマで研究発表を行い、日・ロ研究者間でクラスキノ土城に関する認識を共有し、理解を深めることが出来た。また、その成果を『論集 沿海州渤海古城 クラスキノ古城の機能と性格』として出版し、内外の研究者に公表することが出来た。

このシンポジウムにおいて、次のような研究成果及び研究者間の共通認識を得ることが出来た。

① クラスキノ古城は、「塩州」の州治である。但し、現在までのところ、出土遺物や遺構からその年代がいつまで遡るのかは、

確定的なことは言えない。

② 出土土器の年代は、8世紀前半代までは遡ることが出来るが、それ以前については、本遺跡の水位が高いため、掘り下げることが出来ず、古い遺構や遺物の有無を確認できない。

③ クラスキノ古城の機能と性格は、周辺の遺跡、遺構との関係を考慮して考えなければならない。特にポシエツ湾内にその存在が想定される渤海時代の土塁や入国管理などの外港施設との関係は、注目していく必要がある。また、クラスキノ古城が「日本道」の発着港であるなら、使節が発したであろう「八連城（東京龍原府）」との関係も考慮していかなければならない。

④ クラスキノ古城の機能と性格は、官衙としてだけではなく、交易の拠点という機能と性格も持っていたことを認識しておくべきである。

⑤ 概して渤海の古城の城壁は脆弱であり、特にクラスキノ古城の城壁については防衛施設というより、州治としての威容を示すためのものであったことを認識しておく必要がある。

⑥ クラスキノ古城の城壁がいつ築造されたかという問題について、城内に洪水層がところどころに見られるため、初期の段階では城壁が無かったのではないかという見解については、確定的なことは言えない。但し、その見解を意識しながら、今後の調査を進めていく必要がある。

以上のような共通認識を得た結果、今後どのような問題意識をもって調査に当たるべきかを確認するとともに、これまで進んでいなかった渤海の土器の編年問題に道を開くことが出来た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①清水信行訳 V. I. ボルゲイン他著「クラスキノ土城における稀有な遺構—瓦の側壁を持つ地下式堅穴状遺構—」『青山考古』第28号 2012.5.20 p95～115 査読無
- ②清水信行「第1章 第1節 調査に至るまでの経緯」、「第3章 まとめ」『2011年度ロシア・クラスキノ土城発掘調査概要報告』青山史学 第30号 2012.3.31 p(59)、p(93)～(96) 査読無
- ③清水信行訳 V. I. ボルゲイン他著「クラスキノ土城の調査と沿海地方における渤海の考古学的研究」『青山考古』第28号 2011.3.31 p205～218 査読無
- ④清水信行「第1章 第1節 調査に至るまでの経緯」、「第3章 まとめ」『2010年度ロシア・クラスキノ土城発掘調査概要報告』青山史学 第29号 2011.3.31 p(1)～(2)、p(22)～(24) p93～96 査読無

[学会発表] (計17件)

- ①清水信行「沿海州渤海遺跡出土瓦についての一考察」『渤海を掘るX』於、青山学院大学 2013.3.10
- ②N. V. ビツェンコ「クラスキノ古城住人の生活文化」『渤海を掘るX』於、青山学院大学 2013.3.10
- ③A. L. イヴリェフ「沿海地方クラスキノ古城—歴史からみた特徴と機能—」『渤海を掘るX』於、青山学院大学 2013.3.10
- ④酒寄雅志「クラスキノ古城と塩州」『渤海を掘るX』於、青山学院大学 2013.3.10
- ⑤靖民「交易の視角からみた渤海国」『渤海を掘るX』於、青山学院大学 2013.3.10

⑥V. I. ボルゲイン「クラスキノ古城発掘調査30年と日・ロ共同調査『渤海を掘るX』」於、青山学院大学 2013.3.9

⑦田村晃一「考古学から見たクラスキノ古城の機能と性格」『渤海を掘るX』於、青山学院大学 2013.3.9

⑧小嶋芳孝「渤海平地域とクラスキノ城跡—ポシェット湾周辺遺跡群の評価—」『渤海を掘るX』於、青山学院大学 2013.3.9

⑨中澤寛将「クラスキノ城址出土土器の特質とその意義」『渤海を掘るX』於、青山学院大学 2013.3.9

⑩E. I. ゲルマン「クラスキノ土城の土器」『渤海を掘るX』於、青山学院大学 2013.3.9

⑪清水信行「クラスキノ土城の発掘調査」『渤海研究発表会』中国牡丹江師範学院 中国 2012.8.28

⑫田村晃一「渤海の蓮華文瓦当について」『渤海研究発表会』中国牡丹江師範学院 中国 2012.8.28

⑬小嶋芳孝「渤海遺跡と渤海国の領域」『渤海研究発表会』中国牡丹江師範学院 中国 2012.8.28

⑭酒寄雅志「1933・34年 東京城の発掘調査」『渤海研究発表会』中国牡丹江師範学院 中国 2012.8.28

⑮鈴木靖民「日・中・韓の渤海研究」『渤海研究発表会』中国牡丹江師範学院 中国 2012.8.28

⑯清水信行・岩井浩人「2011年度におけるクラスキノ土城の調査『渤海を掘るIX』」於、青山学院大学 2012.3.3.

⑰清水信行・岩井浩人「2010年度におけるクラスキノ土城の調査『渤海を掘るVIII』」於、青山学院大学 2011.3.16

[図書] (計1件)

①V. I. ボルゲイン、田村晃一、小嶋芳孝、中澤

寛将、E. I. ゲルマン、清水信行、N. V. レヂェンコ、
A. L. イヴリェフ、酒寄雅志、鈴木靖民 『論集
沿海州渤海古城 クラスキノ古城の機
能と性格』清水信行監修 2013. 3. 31 164P

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水 信行 (SHIMIZU NOBUYUKI)
青山学院大学文学部・教授
研究者番号：00178980

(2) 研究分担者

無

(3) 連携研究者

田村 晃一 (TAMURA KOICHI)
(財) 東洋文庫・研究員
研究者番号：30082613

手塚 直樹 TEZUKANAOKI)
青山学院大学文学部・教授
研究者番号：80337857

小嶋 芳孝 (KOJIMA YOSHITAKA)
金沢学院大学文学部・教授
研究者番号：10410367